

第9回「私と新聞」親子作文コンクール  
**入賞作品紹介** 8

小学生の部親子賞 入選

新聞の気持ち

会津若松市 一箕小6年 藤田 佳音さん

この家に配達される新聞として今日はQと、僕を読む君(藤田佳音)に対していつも感じていれることを言いたいと思う。

まずは、毎朝じゃないけど、僕を包装ビニール袋から出してきてくれてありがとう。しかも君はパパさんと違って、はさみで切って僕を出してくれて。無理やり穴を開けて僕を出そうとすると、僕は体をねじらないといけないでしょ。だから、ていねいに僕を出してくれて君には本当に感謝してるよ。

でも、出してくれた後、君は一面には目もくれず僕をひっくり返してテレビ欄を見る。今日放送される番組をひと通り確認した後、君は僕をいすの背にかけてしまうんだ。それっきり僕を読んでも、きつと、僕は全

国紙だから内容が難しいんだろな。君はスマートフォンを持っていてね。そのスマートフォンでニュースも見られる。気になったら、ポンと押して記事を読むことができる。最近の技術はすごいな。でも、僕の方が大先輩。だって僕

は江戸時代前から「瓦版」として人々の役に立ってきたんだから。ある日、君はめずらしく僕を読み始めた。なぜかは知ってるよ。学校で、「気になったニュースを取り上げる」という宿題が出たから。すごくあわてたよね。毎日僕を

読んでくれれば、こんなにあわてることはないでしょ。だから、一面は傷つけることはないよ。でもかなり痛いんだ。僕が役立ってきたのは、こういう役立ち方じゃないよ。君なら分かってくれ

るはず。最後に一つ。カッターマットの代用に僕を選ばないでほしいな。僕はぶ厚いから君の大事な机を傷つけることはないよ。それがありませんか、一つひとつの記事に目を通して

いたただきたい。あなたが何気なく視線を落としたその記事が、新たな世界への小さな入り口になる可能性もあります。新聞として、私はそのように自負しております。

新聞の気持ち

父 藤田 篤さん

この家に毎日配達される新聞として、本日はひとつ、私を読むあなた(藤田篤)に対して日頃感じ

ることを若干述べさせていただきます。「十人十色」と申しますように、新聞の読み方

も人それぞれです。あなたの場合、まずは一面の見出しと写真を確認した後、とりあえず全ての頁をめくって興味がありそ

うな記事を探します。たまにテレビ番組表の側から一面に向かって、つまりは逆向きに頁をめくる

ことがありますが、これは子ども頃の習慣の名残でしょうか。さて、あなたがほぼ毎日入念に目を通し、そこから二、三本の記事に興味を示す紙面といえは、

スポーツ面と国際面ですね。熱心に記事を読んでもらっている時はやはり嬉しい気分です。新聞冥利に尽きるというものです。

しかしながら、残念に思うこともありますので、この場をお借りして申し上げます。それは、興味のある記事以外ほ

んどスルーしてしまっているということです。平日などは時間に追われて忙しいことも理解しておりますが、せっか

私を定期購読しているのですから、ぜひ時間をかけて、夜の帰宅後でも構いませんから、一つひとつの記事に目を通して

いたただきたい。あなたが何気なく視線を落としたその記事が、新たな世界への小さな入り口になる可能性もあります。新聞として、私はそのように自負しております。